

(対象事業：地域連携強化事業・**地域文化資源整備活用事業**・**ミュージアム支援地域人材育成事業**
・国際交流拠点形成事業)

事業名：地域とともにつくるミュージアムを目指したワークショップ・連携授業の拡充事業

事業者名：神戸市立博物館

住所：〒650-0034 兵庫県神戸市中央区京町24番地

TEL：078-391-0035

FAX：078-392-7054

HPアドレス：<http://www.city.kobe.lg.jp/museum/>



連携事業者名：

会場：神戸市立博物館

事業期間：平成21年6月20日～平成22年2月14日

1. 館の使命と本事業の関係

当館では「市民・利用者が集い、神戸を愛し、誇りとする拠り所」になるという使命を掲げている。本事業ではこの使命に基づき、「地域とともにつくるミュージアム」をテーマとして掲げ、学校との連携、地域文化資源の活用・地域との連携、来館することもたちへの博物館活用法の提案、という3つカテゴリーを設けて事業の展開を図った。ここで目指したのはワークショップや連携授業等を通して、次世代の神戸を担う地域のこどもたちに、神戸市域の優れた文化・芸術に多くふれあう機会を提供することである。また市民から募った学習支援交流員が、こどもたちへの積極的な働きかけに携わっている。このように博物館と市民が協働し、こどもたちとの関わりを持つことで、市民が「わたしたちの博物館」と魅力を感じる地域の文化的・学術的中核施設となることができると考える。

2. 企画内容

①事業目的

こどもたちが体験的活動によって資料についての知的好奇心を高め、さらに資料の観察を通して主体的に生きる資質や能力を培う。また、学校に二次資料を持ち出して連携授業を行うことで、こどもたち自らが文化財の意義を理解できるように導く。当館ではこの2点を大きな柱として、これまで教育普及活動を行ってきた。本事業においては、これらの活動を踏まえて、学校や他の社会教育施設との密接な連携を進めるとともに、学習支援交流員（ボランティア）など地域の人材の積極的な参画とその育成を図り、教育普及活動の更なる拡充を図っていく。

②事業概要

上記に掲げた3つのカテゴリーに従って、地域文化資源の教材化と授業プログラムの開発、小規模校との複数学年にまたがる総合的な連携プログラムの開発、博物館が所蔵する資料や作品の理解を深めるための体験的なツールをパッケージしたミュージアムツールボックスの開発、主体的な観察・鑑賞を促す鑑賞ガイドやワークショップの開発、博物館が立地する旧神戸外国人居留地を学習素材とした探検マップの作成など、こどもたちの学びを支援する方法論とそれを実現するためのツールの開発を総合的に行なった。また市民より募った学習支援交流員が事業に介在し、来館するこどもたちや学校と各事業とを有機的に結び付けている。ミュージアムツールボックスの作成とそれを用いたミニワークショップは、学習支援交流員が主体となって取り組んだ。また動物園や教育委員会文化財課などとも協力して事業の実施に当たったほか、学生ボランティアの参加も得られた。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

本事業においてはⅠ. 学校との連携、Ⅱ. 地域文化資源の活用・地域との連携、Ⅲ. 来館すること
もたちへの博物館活用法の提案、という3つカテゴリーを設け、学習支援交流員（ボランティア）が
各所に関与するような体制をとり、各事業を有機的に結び付けることを目指した。

学校との連携授業の拡充・地域文化資源の活用

連携授業の拡充については、小規模
学校との総合的な連携プログラムの
開発、地域文化資源の教材化（「沼
尻墨僊大輿地球儀」「摂州八部郡福
原庄兵庫津絵図」）、及び授業プロ
グラムの開発を行った。小規模校の
事例では、連携授業と学校来館を一
体のものと捉え、神戸市立藍那小学
校の教諭とのチームティーチングに
より、一つのカリキュラムとしてプ
ログラムを構成した。



主な連携授業

例：神戸市立藍那小学校との連携授業・兵庫津絵図複製を活用。

- 9/30・10/27・11/20 藍那小学校：小規模校との連携・摂州八部郡福原庄兵庫津絵図複製の活用
1/27 真野小学校：ツールボックスを活用した学習支援交流員を中心としたワークショップ
2/3 友が丘中学校：沼尻墨僊大輿地球儀複製を活用した連携授業の開発

地域文化資源の活用・地域との連携

学習支援交流員によるこどもむけの旧居留地マップの作成、ミュージアムツールボックスの企
画・製作・運営を行った。この事業により、来館したこどもたちが博物館をより楽しみ、親しめ
るようになった。

- ① 古代の生活体験セット・・・石器や土器
をさわったり、火おこしを体験できるセ
ット。
- ② 南蛮セット・・・ザヴィエル像の掛け軸
や南蛮屏風のミニチュア作成セット。
- ③ 古代の模様セット・・・縄文・弥生土器、
須恵器の破片を使って湿拓を取ったり、
国宝「桜ヶ丘銅鐸」の絵画の乾拓を取る
セット。
- ④ 扇子セット・・・重要美術品「都の南蛮
寺図」に因んで、無地の扇子に好きな南
蛮スタンプを押して色をつけるオリジナ
ル扇子作成セット。



例：ミュージアムツールボックス（扇子セット）

来館する子どもたちへの博物館活用法の提案・地域との連携

上欄とも大きく関わるが、開催する展覧会や館蔵資料を楽しむ学ぶための様々なワークショップを開発し、子どもや親にむけて発信した。企画・運営等への学習支援交流員（ボランティア）の積極的な参画・協働を図った。また、展覧会ごとにこどものための鑑賞ガイドを作成し、来館した子どもたちの展示観察を支援した。これらの事業を周知するため、ポスターを学校に配布したほか、展覧会ごとに案内チラシを作成し、学校を通じ、市内小中学校に通う全ての子どもたちに配布した。



例：11月27日 神戸市立真野小学校来館時
学習支援交流員による活動支援

親子で楽しむ体験講座 参加者 647人

7/19-8/2 古代の暮らし	177人
8/4-16 ザヴィエルの掛軸	233人
8/18-30 古代の文様	237人

王子動物園との連携講座

8/6 参加者 30人

ジュニアミュージアム講座 参加者 44人

10/24 オリジナル金屏風	30人
11/14 オリジナルお面	8人
11/28 神戸とシアトルの歴史	6人

体験講座 参加者 75人

1/23 オリジナル絵巻	16人
1/30 古代の船製作	24人
2/6 歴史たんけん隊	35人



例：11月14日 ジュニアミュージアム講座

(2) 参加者の数

参加者人数 766人

(3) 事業により作成した印刷物等

- ①事業実施ポスター ②旧居留地マップ
- ③こどものための鑑賞用ガイド

企画展“どうぶつ”すきな子よっといで！

鑑賞ガイド・特別展「シアトル美術館展」鑑賞ガイド、特別展「海の回廊」鑑賞ガイド

- ④子どもたちへの案内チラシ

特別展「シアトル美術館展」案内チラシ、特別展「海の回廊」案内チラシ



例：特別展「海の回廊」鑑賞ガイド

(4) 実施事業に関する新聞記事等

なし

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

従来のワークショップや連携授業をさらに、充実、拡充を目指した今年度の取り組みであった。学校の規模や立地条件などにより来館が困難な学校との連携を模索することで、博物館が主体となって企画・運営することの重要性が再認識できた。そこで得られたのは、こどもたちに博物館の資料について興味を持ってもらう、知ってもらう、そのためにはまず博物館が動く（連携授業やワークショップなど）ことである。学校では、授業時間の確保や学習指導要領の改訂などさまざまな課題を抱えながら、「博物館で校外学習をしたい。でも・・・。」という思いを持っている。

今年度の藍那小学校のような取り組みは、その課題の解決に向けての一つの方向性でもあった。また、そのほかの学校園においても連携授業に関して、「来年度もまたやりたい。」「他の資料や教材で授業はできないだろうか？」などの声も寄せられており、今年度の反省も含め、更なる拡充を進めていきたい。

また、居留地マップの作成、ミュージアムツールボックスの作成やワークショップの企画・運営などを中心に学習支援交流員（ボランティア）の積極的な参画を目指した。学習支援交流員の導入は2年目ということもあり、当初は当館職員が主導していくことが多かったが、居留地マップの作成会議や調査をきっかけとして自主的な活動が行われるようになった。積極的に取り組んだ成果が「居留地たんけんを企画したい」という自発的な発言につながったと思われる。ツールボックス作成においてもツールとする当館所蔵品の選定やツール化にいたるまで、学習支援交流員が主体となることができた。

今後の課題として、新学習指導要領の完全実施、そこには博物館との連携授業が明記されている。各学校の実情を把握した上で「学校が求めるもの」「こどもたちが求めるもの」に答えていくことができる連携の形をつくっていかねばならない。

また、学習支援交流員の参画については、今年度は「打合せが不十分で当日の作業補助のみとなってしまった。」「もっと、積極的に意見を出せばよかった。」などの交流員自らの反省・感想も聞かれた。地域の文化的・学術的中核施設となることを目指していく上で、学習支援交流員の積極的な参画は欠かせないものである。今年度の反省を糧に更なる充実・拡充をすすめたい。



中間事業報告書より



例：神戸市立友が丘中学校との連携授業

沼尻墨僊大興地球儀を活用した授業プログラムの開発